

『KCA 加藤会長代行から会員のみなさまへ新年のご挨拶』

平成 31 年を迎えました。会員の皆様には、日頃から神奈川県にてサイクリング普及、発展にご活躍されていることを心より感謝申し上げます。

5月1日に平成に代わる元号を定める「改元」が行なわれます。より一層、楽しく安全にサイクリング活動を楽しまれることを期待します。

神奈川県サイクリング協会は、**本年度より新ホームページを刷新して協会会員への情報提供の拡充、有効活用を推し進めております。来年度は、個人会員向け新事業の開始など会員の皆様にとって益々充実感のある運営をしていくように務めております。**

神奈川県では、自転車の安全で適正な利用と自転車損害賠償保険の加入促進を柱とした「神奈川県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例（仮称）」の制定を

進めております。早ければ早春にも施行開始となります。神奈川県サイクリング協会として、これを良い機会と捉え、会員の皆様におかれましてもサイクリストの手本として安全走行に努め、地域発展に取り組みれることを切望いたします。

末筆ではございますが、協会会員の皆様が、譲り合いの精神から交通安全基盤作りの一助となり、和やかな自転車生活を送られることを心から祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。



神奈川県議会議員 加藤 元弥
(自由民主党、横浜市西区)

『KCA チャレンジ神奈川② かながわの名木・古木「秦野市 鶴巻の大ケヤキ」(8/19開催)』

猛暑が続いているさなか、幸い当日は、しのぎやすい日となりました。

樹高 30mの木陰では、涼しい風が吹くので暑さは、気になりません。

説明によれば、県下で最も太いケヤキで「逆さホウキ」状のケヤキの典型的な樹形ではなく、むしろエノキに似ているため、昔から大エノキと呼ばれてきたとのこと。

胸高周囲 10m、樹齢 600 年、昭和 59 年 12 月 神奈川の銘木 100 選に選定とあります。

参加者は 15 名。サイクリングクラブ TSCC、ヨコスカ、ヨコハマ、神奈川 S S 各クラブおよび個人会員の方々が参集しました。地元の方々も訪れて写真を撮影したり、木陰の涼を楽しんでおられました。



参加者はそれぞれのルートから集り、自転車談義などをひとしきりの後、各方面に散会となりました。

平野は、この後、北上し伊勢原三宮比々多神社（国土創造の神・豊斟淳尊（とよくむめのみこと）を祭神とし、酒解神（さかときのかみ）を合祀）、同所郷土資料館を見学し、輪行で帰宅しました。

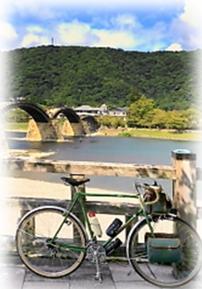
記事・行事 担当理事：平野 肇

『第62回 全国サイクリング大会 長崎県 (9/23 開催)』

2018年の第62回となる全国ラリーは長崎県で開催。今年も、ツール・ド・チャンポン7回目と併設でした。この全国ラリーに神奈川県サイクリング協会からは、ヨコスカC.C.単独5名で参加しました。

加盟クラブを代表して感想記をご紹介します。

若杉さんは、9月15日から宮島の厳島神社で参拝を皮切りに22日まで走りました。



16日は、錦帯橋から欽明路峠を越え防府まで。17日は、瀬戸内の人道海底トンネルで山口から九州に渡り門司まで。18日は、国道で若松大橋下まで移動、渡し船で若松に入る。福岡で松田女史・高橋さんと合流して、稚加栄のイカと関アジやサバを堪能。

19日は、唐津まで海岸線の快適なツーリング。20日は、雨の中、出発。16時30分佐世保発大島行のフェリーに間に合わせるため雨の中を黙々と走る。21日は、長崎カトリック・センターのYHに宿泊。22日は、浦上天主堂の早朝ミサと軍艦島上陸ツアーの観光をして、いよいよ全国ラリー開催地・伊王島へ乗り込みました。



9月23日の大会当日は、朝8時に長崎／伊王島の会場を受付して10時過ぎに走行開始。走ったのは、ベーシック・コース55km。3時頃ゴールに戻り6時過ぎから海岸の会場で後夜祭があり乾杯しました。

温泉で一風呂浴びてホテル戻ったのは、夜10時を過ぎでした。全国ラリーの一日は、早朝から深夜まで慌しく過ぎていきました。



【大会の印象】

今回の全国ラリー長崎大会は、ツール・ド・チャンポンの企画と相乗りで開催されました。このため、これまでの全国ラリーとの違いが気になりました。

良かった点は、長崎地元サイクリストが多数参加しており賑やかだったこと。コースは、海岸線の起伏に富んで走り応えがあり中々良かった。途中の補給ポイントでの補給食と飲料が豊富で地元の特産品が楽しめました。

気になった点は、宿泊予約と(島のため宿から遠方となる)会場までの移動のサービスが無かったこと。

また、今までの全国ラリーで恒例であった連結式の参加バッチが配られなかったのは、とても寂しかった。

神奈川県に留まらず他県の旧知・顔見知りにも、それを楽しみに参加している方々が多数居られました。



ツール・ド・チャンポンの参加者名簿はあるものの肝心の全国ラリーの参加者の名簿がなく「昔からの友人の誰が大会参加しているのか?」仲間と挨拶もできなかつたかもと

思うと残念でした。他のイベントとの相乗りは結構ですが、それでも全国ラリーとして最低線の守るべき体裁は、JCAからも指針を出して整えて欲しいものです。

神奈川県サイクリング協会として全国大会仕様の参加記念バッジについて、一昨年も「楽しみにしている希望者がおり何よりも必須であると思っていること。」「製作しているか気になります。先方の事務局長さんに宜しくお伝えください。」との連絡があった旨を事前に連絡しました。今回、参加者から状況をお聞きし、関東甲信越ブロック協議会(KKCC)の意見としてJCAに要検討課題であることを連絡して頂きました。
補足 KCA 渉外 星野

高橋さんと若杉さんの2名で24～26日まで島原・天草方面に旅行を続け、27日は、快晴で、いよいよ念願の標高1440mの椎矢峠に取り掛かる。ここ内大臣林道は40kmロング・ダートで交通規制のかかった難コース。



朝に登り始めて山奥の椎葉村の民宿についたのは、夕刻5時を過ぎていた。この後、大分方面まで足を延ばす予定でしたが、大型台風25号の九州接近により日程を変更して日向から東京に29日に帰宅することに。15日間1000kmの九州北部自転車旅行もこれで無事完了となりました。



ツール・ド・チャンポン
高橋寿一さんが遠方賞。
受賞おめでとう
ございます(KCAより)

参加者:鈴木正泰・鈴木光則・高橋・松田・若杉 敬称略
◆記事・行事 担当事務:星野成人(文:若杉繁実氏)

『第54回 関東甲信越ブロックラリー茨城大会 (10/20~10/21 開催) 』

茨城県の北浦という大きな湖畔にある白浜にて実施しました。星野は、関東甲信越ブロック協議会・会長と前泊することとなりました。

茨城県協会幹事と深夜2時過ぎまで談笑し翌日、8時に仲良く二人で出発。

早朝に車をデポして居られた新潟県協会・

元会長をお誘いして3名で「湖畔を一周しつつ景勝地巡りをしながら美味しい物でも!!」となりました。偶然にも7月吉日に佐倉から大洗まで【岩ガキを食べようサイクリング】をしたばかりで土地勘のある星野がパイロット役になります。

逆風になると厳しいコースになるので16:00帰着を想定して茨城県協会・会長に聞いた処「南下した方が良い。」とのこと。

珍しく白波が立つ湖面でしたが走りに全く影響がなく距離を稼げます。

潮来に到着して明治32年に建築された「水郷旧家 磯山邸」を見学。「これは、樺。此処の部分は、杉で修復しているな!!」と即座に看破する会長連の知識と眼識には、ただただ敬服するばかり。それにしても見事な建具の飾りつけです。

観光客であればサッパ舟と呼ばれる「前川十二橋」と「加藤洲十二橋」の船巡りがありますけれども、自転車なので前川沿いの鄙びた小道を散策。船めぐりで味わえない太鼓橋を含む8本の橋を確認しました。

さて常陸國一之宮 鹿島神宮を目指します。大きな橋が2本掛かっています。茨城県協会より「上流側の橋が良い!!」と教わっていました。

逆風でインナー・ギヤードにして橋長1075.0mの新神宮橋をやっとの思いで通過。

駅前から急坂を上ると鹿島神宮に到着。

「日本三大楼門」の1つに数えられる見事な赤い門を潜り『鹿島立ち』の言葉が示すように交通安全旅行安泰の御神徳を拜んでから、目指すは、鹿島新当流の開祖「塚原卜伝の墓」。

剣豪小説などで「お箸で蠅を掴むことができる。」と。

いよいよ茨城大会の始まり。

セミナーは「トラブルに備える」をテーマにして色々なノウハウが各協会参加者からも飛び出して有意義な一幕になりました。



茨城県知事から茨城県の自転車環境推進部分についての文面抜粋掲載により式典紹介とします。

自然豊かで走りやすい本県の特徴を活かしたサイクリング環境の充実、現在、県を挙げて取り組んでいるところであり、特に、全長180キロメートルを誇り、本県の恵まれた自然環境や食などが楽しめる「つくば霞ヶ浦りんりんロード」におきましては、JR東日本と連携し、土浦駅内に全国初となる駅直結型サイクリング拠点施設「りんりんスクエア土浦」を設置したほか、7月には、行政だけでなく幅広い主体が連携して推進するための連携組織を設立するなど、日本一のサイクリングエリアの形成に向け、官民一体で取り組んでいるところです。

代表者会議は、代表理事代行：星野と副代表理事：平野が参画。来年の第55回大会は、新潟県の主幹。

サイクリングに最適な宿とのこと。各加盟クラブの泊サイクリングの宿にしてプランを立てるのも一興に思います。再来年は、栃木県を予定しています。

2019年
第55回関東甲信越サイクリングブロックラリー in 新潟の紹介
 1. 開催日 2019年9月28日(土)~29日(日)
 2. 開催場所 長岡市山古志方面
 宿 蓬平温泉 蓬菜の宿「福引屋」
 3. 募集人員 宿泊定員60名程度

一夜明けて平野さんらは、もう一つの大きな湖・西浦湖岸や北浦を巡って土浦へ向かったとの由。星野は、埼玉県八潮市にあるS W渡辺捷治製作所に出向き泥除用のシールを購入。記念にビルダー自らに貼って貰い感激。スカイ・ツリーのイルミネーションを眺めつつ北千住まで走って輪行にて帰宅しました。

久方振りに前田元顧問と直接お会いして語らい他県の方々とサイクリングで交流を深めるご縁に恵まれて良い体験となりました。

来年こそ「KCA会員の皆で大挙して投宿できたら楽しかろう!!」と思いつつ終わります。



左から 鈴木光則氏、高桑理事、星野理事、神山(KKCC)会長 前田一郎元顧問、平野理事

記事・行事 担当理事：星野成人

『KCA 秋季サイクリング大会 (11/11 開催) 』

春季大会のリベンジによる秋季大会。
走行ルートを少しアレンジしました。
東京側の玉川電気鉄道跡地巡りの
【二子玉川園～中耕地～吉沢～本郷～
砧本村】区間を追加しました。



そこから多摩川河川敷行き神奈川県側に渡って日本民家園と大塚・歳勝土遺跡に行く約30キロの行程です。

①砧線・中耕地停留所跡地

②砧線軌道跡の碑



途中のサイクリングコースは、900mほどダート区間ですが、慣れた皆さんです。もろともせず走りまわります。



日本民家園の柿は、プラ・モデルかと思って真下に歩いて見ると本物でした。



民家園敷地内の押し歩き区間は、急坂の石畳です。紅葉が綺麗でした。

そこからアップ&ダウンです。菅生(すごう)緑地にてトイレ休憩を兼ねて呼吸を整えて安全を図ります。



玉電砧線跡地の見所

- ① 砧線・中耕地停留所跡地・石碑
- ② 砧線軌道跡の碑
- ③ 「吉沢橋」当時の玉電の写真と説明の石碑
- ④ 砧本村駅前広場跡 現バス待合所の上屋とベンチは、当時のもの

集合1時間前に行くとハーフ・マラソン大会のコースで集合場所に行く道が横断不可な上に予定走行コースと重なっていました。



担当者にコースmapを見せていただき説明して貰ったり警察官とやり取りしながら上手くやり繰りして無事に完遂出来ました。青山学院大学や日本大学なども出場している本格的な大会でした。急遽、集合場所を兵庫島から二子橋の手前に変更してのブリーフィング。

兵庫島に移動して記念写真後に出発。



暫く走って早淵川の安全なコースをノンビリと漕いでいくと最終目的地の大塚・歳勝土遺跡に到着です。

皆様の意見を取り入れて帰路の利便性から此处で自由解散とさせていただきました。

暖かで穏やかなサイクリング日和の1日でした。



◆記事・行事 担当理事：星野成人

『KCA チャレンジ神奈川③名木・古木「川崎市影向寺(ようごうじ)の乳イチョウ」(12/2 開催)』

まず皆さんから第一声「影向!? エイコウ? ヨウゴウと読めませんね!!」。

そもそも「栄興寺」と呼ばれていたそうです。影向寺の前名は「養光寺」。光明皇后の眼病が平癒した意が籠められているとのこと。仏教用語として「神仏の霊が具体的な姿をとって現れること」の意味なのだとか。

影向寺になったのは、新編武蔵風土記稿に「万治年中(1660年の前後4年間の年号の意)回禄(火の神の名で転じて火災の意)の時、本尊堂前の石上に留まりてより今の如くに影向寺に書き改め・・・」薬師如来が石の上に逃れて火災から免れたのは、この石に神仏が憑依(ひょうい)しているとされた影向石の恩恵を受けてからのこと。

詳しくは「宮前の風 16号/17号」でHP検索してみてください。

さてチャレンジですので会員がポツポツ訪れるのが常なのですが、今回は、ヨコハマ C.C.が大挙して訪れてくれました。受付をしている身として嬉しく頼もしく感じました。結果、ヨコハマとヨコスカの加盟クラブ員が同数で7名ずつの参画でした。サイクリングクラブ TSCC ほか個人会員も常連さんが居られます。

サイクリングのきっかけ作りの一つとして神奈川県サイクリング協会行事を上手に活用していただければ嬉しく思います。

今年の KCA テーマである乳イチョウだけではなく、聖徳太子堂・カ石、前述した影向石など見所が沢山なので、これを機会に四季を通じて立ち寄りしても面白い史跡(場所)に感じました。



さてチャレンジですので会員がポツポツ訪れるのが常なのですが、今回は、

ヨコハマ C.C.が大挙して訪れてくれました。受付をしている身として嬉しく頼もしく感じました。結果、ヨコハマとヨコスカの加盟クラブ員が同数で7名ずつの参画でした。

サイクリングクラブ TSCC ほか個人会員も常連さんが居られます。サイクリングのきっかけ作りの一つとして神奈川県サイクリング協会行事を上手に活用していただければ嬉しく思います。

今年の KCA テーマである乳イチョウだけではなく、聖徳太子堂・カ石、前述した影向石など見所が沢山の場所ですので、これを機会に四季を通じて立ち寄りしても面白い史跡(場所)に感じました。



◆記事・行事 担当理事：星野成人

『2019年 初詣サイクリング「長光山 妙蓮寺」(1/20 開催)』

「平成最後の初詣サイクリングで心新たに安全祈願」

KCA 新年初めての行事は、天候にも恵まれた2019年1月20日(日)に、東急東横線妙蓮寺駅前の日蓮宗大本山池上本門寺の末寺「長光山、妙蓮寺」にて開催致しました。

こちらは「笑点」の司会者で有名だった落語家「桂歌丸」師匠の葬儀の行われたお寺です。

参加者の皆様は受付開始には余裕を持たれて時間前から到着され、久しぶりに再会して歓声もまじえて、個々の賀詞交換を始める方々も見受けられました。

開始時刻10:30には参加者50名を受け付けて集合写真の撮影から式典は始まりました。

日差しのなか KCA 平野副代表理事の司会により、古屋代表理事が新年の挨拶・KCAの現況・今年の展望について語られました。

続いてお忙しい中ご出席いただいた、加藤会長代行と営事務所秘書の新田様をご紹介し、新年のご挨拶をいただきました。

高桑事務局長より2018年度ビッグラン神奈川の講評があり、同企画の完走者及び優秀報告書に対し加藤会長代行から表彰していただきました。つづいて参加各クラブの代表と個人会員の代表に、今年の抱負を発表していただきました。星野代表代行より現状と今年度の動向について報告がありました。

>>次頁に続く




神奈川県サイクリング協会 2019年 初詣サイクリング
 日蓮宗大本山池上本門寺の末寺「長光山 妙蓮寺」2019.1.20.



「新年の挨拶」
古屋代表理事

「賀詞交換」
加盟クラブの年頭挨拶

担当の浅見より次年度の「ビッグラン神奈川」：《神奈川県警察署めぐり》と「チャレンジ神奈川」：《神奈川県の水道施設めぐり》について説明し、多くの皆様の参加をお願いしました。

申込者に妙蓮寺の御朱印（綺麗な花で 18 種ありました）をお渡しし、最後に安全走行でお帰りになる様をお願いして散会と致しました。

皆様ご協力ありがとうございました。

記事・行事 担当理事：浅見仁信

『KCA 会員の皆さんへお願い』

既にお手元に届いていると思いますが「郵便料の削減、理事募集のお願いについて」2018年11月、郵便局より一方的な大幅アップの価格改定がなされました。

インターネット環境を有しておられる会員の皆さまには、KCA ホームページを有効活用して頂き、極力要項などをダウンロードして頂き、個別の郵便物の発送を低減し、郵送料を削減したくお願いしました。

壮年代でも加盟クラブ、個人会員の隔てなく理事が務まる業務形態にしたいと考えております。KCA 会員同士の交流の場の創出や理事間の交流も楽しむ役割を担っていただくサイクリング協会理事へ応募をお願いしました。

皆さま何とぞご協力のほどを宜しくお願いいたします。

[詳細内容は、既に発送しました「お願い文書」を参照下さい。](#)

『KCA 行事の写真ご提供のお礼』

ヨコスカサイクリング・クラブの鈴木光則さんには、KCA イベント行事などでの写真撮影・提供をして頂きまして、まことにありがとうございました。この場をかりてお礼申し上げます。今後ともご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

広報部会：本田哲行

『編集後記』

「KCA News No.111」をお届けします。

本号が会員の皆さまのお手元に届くころには、厳しい寒さも和らぎ春寒しだいに緩むころ、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のお引き立てをいただき、ありがたくお礼を申し上げます。

さて、平成 30 年度も残すところ 2 カ月と平成最期の年となり、4 月には新元号の一般公開となります。新たな元号となる 2019 年度の KCA 事業計画も、イベント企画として「楽しい K C A 個人会員サイクリングの集い」などを試みることにし、KCA 会員の皆さまには、ますます魅力あるサイクリング協会を目指し、安全・安心して楽しんで頂くよう、それぞれの部会の担当理事各位も日々努力を重ねております。

皆さまのインフルエンザ対策などの健康管理には十分に留意して頂きますようよろしくお願い申し上げます。また、今後とも当協会の新ホームページを含め、広報活動の更なる拡充を模索しております。KCA 会員の皆さまのご支援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。